津山工業高等専門学校	開講年度	令和08年度 (2026年度)	授業科目	現代哲学

科目基礎情報

科目番号	0028	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	なし		
担当教員	神谷 健		

到達目標

学習目的：この授業は，倫理的課題と深く結びついた現代哲学の諸問題を系統的に学習することによって，技術者等として社会に対する責任を自覚する能力を身につけることを目標としている。
到達目標
1　哲学者の思想に触れ，人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
2　現代科学の考え方や科学技術の特質，科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
◎ 3　人間性，教養，モラルなど，社会的・地球的観点から物事を考えることができる。
◎印がついているものは、分野横断的能力の到達目標です。

ルーブリック

	優	良	可	不可
評価項目1	哲学者の思想に触れ，人間とはどのような存在と考えられてきたかについて詳細かつ発展的に説明できる。	哲学者の思想に触れ，人間とはどのような存在と考えられてきたかについて詳細に説明できる。	哲学者の思想に触れ，人間とはどのような存在と考えられてきたかについて説明できる。	左記に達していない。
評価項目2	現代科学の考え方や科学技術の特質，科学技術が社会や自然環境に与える影響について詳細かつ発展的に説明できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質，科学技術が社会や自然環境に与える影響について詳細に説明できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質，科学技術が社会や自然環境に与える影響について説明できる。	左記に達していない。
評価項目3	人間性，教養，モラルなど，社会的・地球的観点から物事を詳細かつ発展的に考えることができる。	人間性，教養，モラルなど，社会的・地球的観点から物事を詳細に考えることができる。	人間性，教養，モラルなど，社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	左記に達していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：人文・社会 基礎となる学問分野：哲学／倫理学 専攻科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(1) 数学、物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め、人文・社会科学に関する知見を広めて、機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用できる。 」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習･教育到達目標は「（Ｅ）技術者倫理を理解することができる」である。 授業の概要：現代の工学技術者・工学研究者にとって不可欠の教養となっている哲学・倫理に関する根本問題を取り上げることによって，科学技術文明について考察を深めたい。
授業の進め方・方法	授業の方法：後期開講。講義を中心に、受講生と議論を交えながら授業をすすめていく。課題提出を求めて授業時間外での追加学習を求める。 成績評価方法：１回の課題（100%）。それぞれの課題で，上記の達成目標の達成度を判定する。再試験による成績再評価は実施しない。授業時間外の学習については授業時間内で教授した内容と同様にその理解と応用能力を課題の内容によって授業時間内の学習の成果と一体的に評価する。
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学修を必要とする科目」である。当該授業時間と授業時間外の学修を合わせて，１単位あたり４５時間の学修が必要である。授業時間外の学修については，担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：課題が必ず課されるので，平素からニュース等を見る習慣をつけて，自分なりの問題関心をもつこと。事前に行う準備学習として、その時点までの講義内容と疑問点の整理をしておくこと。本科目は，本科5年次で学修した「技術者倫理」を基盤とし，現代哲学の諸問題を系統的に学習する科目である。 基礎科目：倫理（全系１年），技術者倫理（全系５） 関連科目：工学倫理（専１年） 受講上のアドバイス：各授業開始時に出席を確認し、その時点で不在の者は少しの遅れで到着しても遅刻とする。授業に30分以上遅れてやってきた学生は欠課とするが，何回かの遅刻を１欠課とするという措置はとらない。遅れてきた学生は到着時に自分から申し出ること（申し出ない場合は欠課扱いとする）。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

選択

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	到達目標全般の説明
		2週	現代哲学の基礎（授業時間外の学習：授業中の指示に基づく資料等の学習〈以下同様〉）	到達目標１と３
		3週	前項の続き	到達目標１と３
		4週	前項の続き	到達目標１と３
		5週	現代哲学の展開	到達目標１と３
		6週	前項の続き	到達目標１と３
		7週	前項の続き	到達目標１と３
		8週	前項の続き	到達目標１と３
	4thQ	9週	現代哲学と科学技術	到達目標２
		10週	前項の続き	到達目標２
		11週	前項の続き	到達目標２

		12週	現代哲学と社会	到達目標２と３
		13週	前項の続き	到達目標２と３
		14週	前項の続き	到達目標２と３
		15週	前項の続き	到達目標２と３
		16週	成績評価の解説	到達目標３

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	80	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	20	0	20

津山工業高等専門学校	開講年度	令和08年度 (2026年度)	授業科目	国際文化論

科目基礎情報

科目番号	0008	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教材は教員が準備する。		
担当教員	渡邊 朝美		

到達目標

学習目的：蘇曼殊の詠んだ詩を読むことで，20世紀初期の中国の文人の思想を読みとく。蘇曼殊の作品と人物について理解することで，日本と「一衣帯水」の間柄である中国についての理解も深める。文化的偏見を捨て，国際交流に寄与できる能力を身につける。

到達目標
１．中国語で書かれた詩を読むことができ，味わうことができる。
２．中国の文化や社会を理解し，日本とは異なる面を理解，許容し，それとの協力，共生の心を持つことが出来る。
３．他文化の存在を理解し，日本及び日本人の採るべき思考，行動を考えることが出来る。

ルーブリック

	優	良	可	不可
評価項目1	中国語で書かれた詩を読むことができ，意味を十分理解し，自身の考えを述べることができる。	中国語で書かれた詩を読むことができ，意味を十分理解することができる。	中国語で書かれた詩を読み，ある程度理解することができる。	左記に達していない。
評価項目2	中国の文化や社会を理解し，日本とは異なる面を理解，許容し，それとの協力，共生の心を持つことが出来る。	中国の文化や社会を理解し，日本とは異なる面を理解，許容することが出来る。	中国の文化や社会を理解し，日本とは異なる面を理解することが出来る。	左記に達していない。
評価項目3	他文化の存在を理解し，日本及び日本人の採るべき思考，行動を考えることが出来る。	他文化の存在を理解し，日本及び日本人の採るべき行動を考えることが出来る。	他文化に対して，日本及び日本人の採るべき思考，行動を考えることが出来る。	左記に達していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：人文・社会 基礎となる学問分野：中国語／東洋史／中国哲学／中国文学 専攻科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(1) 数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，人文・社会科学に関する知見を広めて，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用できる。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) 地球的視点から多面的に物事を考えることができ、地域との連携による総合能力の展開ができる」である。 授業の概要：蘇曼殊の詩を読むことで彼の思想を明らかにする。蘇曼殊の生きた時代の中国の情勢，中国と日本の関係を知ることで日中交流の歴史について学ぶ。
授業の進め方・方法	授業の方法：演習形式で行う。受講者は，事前に割り当てられた蘇曼殊の詩について発表する。語句の意味を調べ，詩の意味を理解し，中国語で音読ができるように準備する。蘇曼殊の生きた時代の中国の文化や社会についても講義をする。 成績評価方法： ・成績は，演習（50%）＋期末試験（50%）により評価する。 ・学期末段階の成績が60点未満であっても，追加の課題を与えたりはしないので，平素の授業の準備と演習にしっかりと取り組むこと。
注意点	履修上の注意：本科目は，「授業時間外の学修を必要とする科目」でもある。当該授業時間と授業時間外の学修を合わせて，１単位あたり４５時間の学修が必要である。授業時間外の学修については，担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス： ・本科5年次で学修した「環境科学」を基盤とし，中国語や中国事情の学習を通じて国際交流に必要な多面的な視点を養う科目である。 ・非常に難しい中国語を読み，日本語に翻訳するため，留学生で履修を希望する者は，2026年4月までに日本語能力試験（JLPT)1級に合格していることを条件とする。 ・中国や台湾に関するニュースに注意を払っておくこと。 ・学士の認定を受けるためには必要な講座なので，その点をよく理解して受講すること。 基礎科目：世界史（１年），政治経済（２），異文化社会論Ⅰ（４），異文化社会論Ⅱ（４），コミュニケーション学Ⅰ（４），コミュニケーション学Ⅱ（４） 関連科目：国際コミュニケーション演習（専１年），社会科学概論（専２） 受講上のアドバイス： ・授業開始時刻に遅れた場合，20分までは遅刻，それ以降は欠課として扱う。 ・授業に積極的に参加し，しっかりと演習に取り組むこと。 ・授業中に携帯電話やスマートフォンを使用することは認めない。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

選択

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

前期	1stQ	1週	授業内：ガイダンス 授業外：学んだ内容をしっかりを復習し，中国の歴史や文化に対する理解を深める。	授業内：中国の歴史や文化について理解を深める。 授業外：異文化に興味をもち，書籍やニュースなどから情報を得る。
		2週	授業内：中国の歴史と文化 授業外：学んだ内容をしっかりを復習し，中国の歴史や文化に対する理解を深める。	授業内：中国の歴史や文化について理解を深める。 授業外：異文化に興味をもち，書籍やニュースなどから情報を得る。
		3週	授業内：中国の歴史と文化 授業外：学んだ内容をしっかりを復習し，中国の歴史や文化に対する理解を深める。	授業内：中国の歴史や文化について理解を深める。 授業外：異文化に興味をもち，書籍やニュースなどから情報を得る。
		4週	授業内：中国の歴史と文化 授業外：学んだ内容をしっかりを復習し，中国の歴史や文化に対する理解を深める。	授業内：中国の歴史や文化について理解を深める。 授業外：異文化に興味をもち，書籍やニュースなどから情報を得る。
		5週	授業内：中国の歴史と文化 授業外：学んだ内容をしっかりを復習し，中国の歴史や文化に対する理解を深める。	授業内：中国の歴史や文化について理解を深める。 授業外：異文化に興味をもち，書籍やニュースなどから情報を得る。
		6週	授業内：蘇曼殊や同時代の中国の情勢について知る 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩の語句などについてまとめ，レジュメを作成する。	授業内：蘇曼殊と彼の生きた時代の中国の状況について理解を深める。 授業外：異文化に興味をもち，書籍やニュースなどから情報を得る。
		7週	授業内：蘇曼殊の詩を読む 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩の語句などについてまとめ，レジュメを作成する。	授業内：蘇曼殊の詩を読み，中国文化について理解を深める。 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩を読み，味わう。
		8週	授業内：蘇曼殊の詩を読む 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩の語句などについてまとめ，レジュメを作成する。	授業内：蘇曼殊の詩を読み，中国文化について理解を深める。 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩を読み，味わう。
	2ndQ	9週	授業内：蘇曼殊の詩を読む 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩の語句などについてまとめ，レジュメを作成する。	授業内：蘇曼殊の詩を読み，中国文化について理解を深める。 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩を読み，味わう。
		10週	授業内：蘇曼殊の詩を読む 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩の語句などについてまとめ，レジュメを作成する。	授業内：蘇曼殊の詩を読み，中国文化について理解を深める。 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩を読み，味わう。
		11週	授業内：蘇曼殊の詩を読む 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩の語句などについてまとめ，レジュメを作成する。	授業内：蘇曼殊の詩を読み，中国文化について理解を深める。 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩を読み，味わう。
		12週	授業内：蘇曼殊の詩を読む 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩の語句などについてまとめ，レジュメを作成する。	授業内：蘇曼殊の詩を読み，中国文化について理解を深める。 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩を読み，味わう。
		13週	授業内：蘇曼殊の詩を読む 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩の語句などについてまとめ，レジュメを作成する。	授業内：蘇曼殊の詩を読み，中国文化について理解を深める。 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩を読み，味わう。
		14週	授業内：蘇曼殊の詩を読む 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩の語句などについてまとめ，レジュメを作成する。	授業内：蘇曼殊の詩を読み，中国文化について理解を深める。 授業外：担当することになった蘇曼殊の詩を読み，味わう。
		15週	（期末試験）	
		16週	まとめ	まとめを行い，これからの日中関係の在り方について考える。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	演習	発表	相互評価	自己評価	試験	レポート	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

津山工業高等専門学校	開講年度	令和08年度 (2026年度)	授業科目	実践英語Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0007	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	CLIL英語で学ぶ文学（三修社）、 Successful Keys to the TOEICListening and Reading Test GOAL 500 1（桐原書店）その他プリント等。辞書は必ず持参のこと。可能であればPCを持参することを推奨する。		
担当教員	山口 裕美		

到達目標

学習目的：４技能（聴き・読み・書き・話す）をバランスよく養成する。

到達目標：
1.英語で積極的にミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。
2.英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。
3.本文の要旨を英語でまとめることができる。
4.口頭で自分の考えを伝えることができる。
5◎.日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることができる。

ルーブリック

	優	良	可	不可
評価項目1	英語で積極的にミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。	英語で積極的にミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりがおおむねできる。	英語で積極的にミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりが最低限できる。	左記に達しない
評価項目2	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが十分できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが最低限できる。	左記に達しない
評価項目3	本文の要旨を英語でまとめることが十分できる。	本文の要旨を英語でまとめることができる。	本文の要旨を英語でまとめることが最低限できる。	左記に達しない
評価項目4	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることが十分できる。	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることができる。	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることが最低限できる。	左記に達しない
評価項目5	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることが十分できる。	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることができる。	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることが最低限できる。	左記に達しない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：英語・国際コミュニケーション推進プログラム 基礎となる学問分野：英語学・英米 / 英語圏文学・言語学・音声学 専攻科学習目標との関連： 本科目は専攻科学習目標「(1) 数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，人文・社会科学に関する知見を広めて，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用できる。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連： 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（B）専攻分野に関連する知識理解を深化させ，それらを応用することができる」である。 授業の概要： 文学的な英語及びTOEICの語彙，文法，リスニングを学習する。
授業の進め方・方法	授業の方法：授業での表現を利用して自分の言いたいことを英語で表現できるようにする。同時に，TOEICのテキストを用いて、 TOEIC受験に向けた対策も進めていく。 成績評価方法： 毎週の演習口頭発表25%、課題提出25%，２回の小テスト50%
注意点	履履修上の注意：本科目は「授業時間外の学修を必要とする科目」である。当該授業時間と授業時間外の学修を合わせて，１単位あたり４５時間の学修が必要である。授業時間外の学修については，担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス :授業には積極的に参加し，課題は必ず期限内に提出すること。英語力を判断する手段としてTOEICが広く認められている現状を踏まえ，TOEICを積極的に受験する姿勢を持って欲しい。 基礎科目： 英語IV（４年），英語V（５） 関連科目： 技術英語講読（専１)、実践英語II（専２） 受講上のアドバイス：事前に行う準備学習として，授業前に必ず，予習をしてくること。授業開始後の入室は遅刻とみなし，２回の遅刻で１単位時間の欠課とする。また、本科目は，本科5年次で学修した「英語V」を基礎とし，技術者に求められる英語の四技能の習得を目指す科目である。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

選択

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

後期	3rdQ	1週	ガイダンス（予習・復習など学習法の説明，受講上の注意）	年度内の学習目的が理解できる
		2週	CLIL Literature / TOEIC 対策	文法が理解できる。
		3週	CLIL Literature / TOEIC 対策	進行形を含んだ英文を聞き取れる。
		4週	CLIL Literature / TOEIC 対策	５Ｗ１Ｈの質問に応答できる。
		5週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短い対話文を英語で理解できる。
		6週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短いスピーチを英語で理解できる。
		7週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短い対話文を英語で理解できる。
		8週	小テスト①	授業内容の振り返りができる。
	4thQ	9週	答案返却と解説 CLIL Literature / TOEIC 対策	文法が理解できる。
		10週	CLIL Literature / TOEIC 対策	進行形を含んだ英文を聞き取れる。
		11週	CLIL Literature / TOEIC 対策	５Ｗ１Ｈの質問に応答できる。
		12週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短いスピーチを英語で理解できる。
		13週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短い対話文を英語で理解できる。
		14週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短いスピーチを英語で理解できる。
		15週	小テスト②	授業内容の振り返りができる。
		16週	答案返却と解答解説	試験のフィードバックができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	小テスト	発表	課題	自己評価	合計
総合評価割合	50	25	25	0	100
基礎的能力	50	20	25	0	95
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	5	0	0	5

津山工業高等専門学校	開講年度	令和08年度 (2026年度)	授業科目	実践英語Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0026	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	CLIL英語で学ぶ文学（三修社）、 Successful Keys to the TOEICListening and Reading Test GOAL 500 1（桐原書店）その他プリント等。辞書は必ず持参のこと。可能であればPCを持参することを推奨する。		
担当教員	山口 裕美		

到達目標

学習目的：４技能（聴き・読み・書き・話す）をバランスよく養成する。

到達目標：
1.英語で積極的にミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。
2.英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。
3.本文の要旨を英語でまとめることができる。
4.口頭で自分の考えを伝えることができる。
5◎.日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることができる。

ルーブリック

	優	良	可	不可
評価項目1	英語で積極的にミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。	英語で積極的にミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりがおおむねできる。	英語で積極的にミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりが最低限できる。	左記に達しない
評価項目2	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが十分できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが最低限できる。	左記に達しない
評価項目3	本文の要旨を英語でまとめることが十分できる。	本文の要旨を英語でまとめることができる。	本文の要旨を英語でまとめることが最低限できる。	左記に達しない
評価項目4	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることが十分できる。	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることができる。	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることが最低限できる。	左記に達しない
評価項目5	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることが十分できる。	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることができる。	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることが最低限できる。	左記に達しない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：英語・国際コミュニケーション推進プログラム 基礎となる学問分野：英語学・英米 / 英語圏文学・言語学・音声学 専攻科学習目標との関連： 本科目は専攻科学習目標「(1) 数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，人文・社会科学に関する知見を広めて，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用できる。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連： 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（B）専攻分野に関連する知識理解を深化させ，それらを応用することができる」である。 授業の概要： 文学的な英語及びTOEICの語彙，文法，リスニングを学習する。
授業の進め方・方法	授業の方法：授業での表現を利用して自分の言いたいことを英語で表現できるようにする。同時に，TOEICのテキストを用いて、 TOEIC受験に向けた対策も進めていく。 成績評価方法： 毎週の演習口頭発表25%、課題提出25%，２回の小テスト50%
注意点	履履修上の注意：本科目は「授業時間外の学修を必要とする科目」である。当該授業時間と授業時間外の学修を合わせて，１単位あたり４５時間の学修が必要である。授業時間外の学修については，担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス :授業には積極的に参加し，課題は必ず期限内に提出すること。英語力を判断する手段としてTOEICが広く認められている現状を踏まえ，TOEICを積極的に受験する姿勢を持って欲しい。 基礎科目： 英語IV（４年），英語V（５） 関連科目： 技術英語講読（専１） 受講上のアドバイス：事前に行う準備学習として，授業前に必ず，予習をしてくること。授業開始後の入室は遅刻とみなし，２回の遅刻で１単位時間の欠課とする。また、本科目は，本科5年次で学修した「英語V」を基礎とし，技術者に求められる英語の四技能の習得を目指す科目である。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

選択

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

前期	1stQ	1週	ガイダンス（予習・復習など学習法の説明，受講上の注意）	年度内の学習目的が理解できる
		2週	CLIL Literature / TOEIC 対策	文法が理解できる。
		3週	CLIL Literature / TOEIC 対策	進行形を含んだ英文を聞き取れる。
		4週	CLIL Literature / TOEIC 対策	５Ｗ１Ｈの質問に応答できる。
		5週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短い対話文を英語で理解できる。
		6週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短いスピーチを英語で理解できる。
		7週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短い対話文を英語で理解できる。
		8週	小テスト①	授業内容の振り返りができる。
	2ndQ	9週	答案返却と解説 CLIL Literature / TOEIC 対策	文法が理解できる。
		10週	CLIL Literature / TOEIC 対策	進行形を含んだ英文を聞き取れる。
		11週	CLIL Literature / TOEIC 対策	５Ｗ１Ｈの質問に応答できる。
		12週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短いスピーチを英語で理解できる。
		13週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短い対話文を英語で理解できる。
		14週	CLIL Literature / TOEIC 対策	短いスピーチを英語で理解できる。
		15週	小テスト②	授業内容の振り返りができる。
		16週	答案返却と解答解説	試験のフィードバックができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	小テスト	発表	課題	自己評価	合計
総合評価割合	50	25	25	0	100
基礎的能力	50	20	25	0	95
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	5	0	0	5

津山工業高等専門学校	開講年度	令和08年度 (2026年度)	授業科目	社会科学概論

科目基礎情報

科目番号	0027	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	機械・制御システム工学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	木村護郎クリストフ『節英のすすめ』萬書房。また、各自の選択テーマによって，購入すべき文献を別途指示することがある。		
担当教員	角谷 英則		

到達目標

学習目的：専門とは異なる分野における思考方法をまなぶことによって，人間性涵養の背景となるような教養を身につけることを学習目的とする。
到達目標：社会科学的な視点から人間，社会，文化について多面的に理解し，国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち，幸福とは何かを追究しながら技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。

ルーブリック

	優	良	可	不可
評価項目1	十分に授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	10回をこえて欠席すること
評価項目2	指示に十分に従ったレポートを提出する／または口頭報告をおこなうこと	指示にある程度従ったレポートを提出する／または口頭報告をおこなうこと	指示に最低限従ったレポートを提出する／または口頭報告をおこなうこと	指示に従ったレポートを提出しない／または口頭報告をおこなわないこと

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	一般・専門の別：一般　人文・社会 学習の分野：史学・ジェンダー学・社会学・言語学・障害学 専攻科学習目標との関連：本科目は専攻科学習目標「(1) 数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，人文・社会科学に関する知見を広めて，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用できる。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) 地球的視点から多面的に物事を考えることができ，地域との連携による総合能力の展開ができる」である。 授業の概要：この科目は，近代以降に生み出された社会科学の古典やよく知られた諸学説に関する基本的な知識を参照・学習しながら，現代社会の具体的な諸問題について考えることによって，社会科学的なものの見方，思考方法を身につけることを目的とする。
授業の進め方・方法	授業の方法：毎週の当番報告者を中心として講義をおこないながら，受講者の意見を求め，そこからさらに議論を発展させていく方法で進める。 成績評価方法： 提出課題（100%）もしくは口頭報告（100%）。十分な参加が評価対象となる必要条件である。課題は課題提示の翌週の提出することとし，授業時間外の学習評価はその内容によってなされる。再試験は実施しない。
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学修を必要とする科目」である。当該授業時間と授業時間外の学修を合わせて，１単位あたり４５時間の学修が必要である。授業時間外の学修については，担当教員の指示に従うこと。 本科目は，本科5年次で学修した「環境科学」を基盤とし，社会的諸問題の解決に向けて主た社会科学的なものの見方・考え方を養う科目である。 履修のアドバイス：この科目の受講者には，履修のために相当の学習意欲・知的好奇心・積極性が要求される。また，講義中の積極的な発言が歓迎される。遅刻（授業開始におくれること、）に対するペナルティはもうけないが，受講者の自律性につよく期待する。事前に行う準備学習はとくにもとめない。事前に行う準備学習はとくに必要ない。 基礎科目：歴史I（１年），歴史II（２），「コミュニケーション学I」（４），「コミュニケーション学II」（４） 関連科目：なし

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

選択

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、導入 「社会科学」とはなにか。	
		2週	社会科学的な思考について	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		3週	社会言語学とはなにか	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		4週	課題としての「節英」（以下テキストにそった報告と解説をおこなう）	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		5週	「９・１１」と英語	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		6週	「自国化」による情報伝達の屈折	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		7週	共通語の限界	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		8週	言語運用能力の格差	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
	4thQ	9週	コミュニケーションにおける社会言語学的課題の解決方法	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		10週	「国際英語」論	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		11週	多言語とどうつきあうか	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		12週	日本語に視点をおいた異言語話者間コミュニケーション①	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）

		13週	日本語に視点をおいた異言語話者間コミュニケーション②	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		14週	計画言語論	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		15週	後期末試験	レポート／プレゼンテーション準備を十分に行ったうえで参加すること。（評価項目1,2）
		16週	全体のふりかえり	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0